

## 製造技術プロジェクトへの意見

東京大学大学院工学系研究科教授 中尾政之

製造技術のプロジェクトを進めるときに問題となるであろうことを記します。

1. 総合科学技術会議が取り持つ製造技術として、重点分野のライフサイエンス・情報・環境・材料に関する基礎研究や製品開発をバックアップするような製造技術に、特化した方がよいと思います。  
つまり方向として、いわゆるナノとかマイクロのマニュファクチャリング、環境に優しい材料・製造法を実現する技術、知識を操作して高度な情報社会を実現する技術、に絞った方がよいと思います（推進戦略の3項目は言葉が違うけれど、大体は方向が似ています）。  
ここに社会的なこと、たとえば司法やマスコミ、教育、貿易、国際化、少子化、等まで含めると、話が発散すると思います。
2. その製造技術を実現する研究主体として、民の力を学・官に任期付けで貸すような組織を作るべきだと思います。  
大学の中に寄付講座を主体としたセンターでも作って、40歳前後の民間エンジニア出身の教官群を集め、そこに集中投資すべきだと思います。  
大学の製造技術の教官は、長年の冷や飯食いで貧乏癖が付き、なかなか挑戦しにくい体質になっていると思います。  
また、国研も、長年の企業との乖離によって、研究開発のベクトルが企業とまったく違っていても、我が道を通す議論だけが出て、役に立たないと思います。

以上。